

番組審議会報告

第473回 10月22日開催
出席委員（50音順・敬称略）

荒巻 裕	大村 英昭
倉光 弘己	黒田 勇
櫻井 美幸	深井 麗雄

テレビ番組「ダウンタウン777」
10月9日（水）午後6時55分～8時54分 放送分

櫻井委員

出場者の提案を基に討論バトルを繰り広げるという、他の番組とは一味違うコンセプトがまだ生かしきれていないように思う。提案者の不満そのものは理解できるが、説得力に欠ける面が多く見られた。提案自体は突飛なものでもかまわぬが、なるほどと思える部分がもっとあったり、双方の議論がきちんと成立した上で言葉のバトルの面白さを引き出すことができれば、番組のコンセプトも生きるのではないか。

深井委員

番組を見てまず思ったのは、鉄の壁のゲストが提案者をもう少し助けてやってもいいのではないかということだ。場合によっては提案者がみじめな気分になるし、視聴者の方もしらけてしまう。ゲストが提案の中身をそれなりに咀嚼して、提案者にアドバイスをするという形があってもよいのではないか。そうすれば、硬派のジャンルや素材を柔らかく処理してお茶の間に届けることができると思う。

黒田委員

提案者と鉄の壁が渡り合うという競争型のメディアイベントの一番重要なポイントは、出演者はもちろん視聴者も含め、合意されたルールがあるということだが、それがもうひとつはっきりしていなかった。きちんとしたルールがないと、単にワイワイやっているだけのトーク番組になってしまう。そのルールを明確にする一つの手法として、陪審員に一言聞いた後提案者に簡単に反論させ、その上で再評価するというやり方はどうだろうか。

倉光委員

この番組は、一言で言えば「言葉のプロレス」だと思う。それもやや変

則マッチぎみである。というのは、テーマがどうも個人的な不平不満に片寄り過ぎているからだ。もっと社会性のあるテーマであれば、言葉のプロレスも徹底的にしかも明るく出来るのではないか。

また、鉄の壁に穴がないのは不満である。鉄の壁に弱い部分があつてこそ、提案者とのバトルももっと変化に富んだ面白いものになると思う。

荒巻委員

私は、2時間という時間をあまり意識しないで一気に見てしまった。番組のリニューアル1回目としては及第点をつけられると思う。

一番大事なことは、提案者の厳選である。個人的なコンプレックスを不平不満のテーマにするのは、見ていてあまり気分のよいものではない。事前の取材をきちんとして、バラエティー番組にふさわしい提案者を探し出すことが肝心だと思う。

大村副委員長

討論がうまくかみ合っていないせいか討論時間の長さにやや耐えられない感じがした。また、司会のダウンタウンが番組の中でどういう位置にいるのかよく分からなかった。もう少し積極的な役割があつてもよいのではないか。

この番組は、毎日放送の制作でかつ全国ネットだが、番組としての関西色というかローカルアイデンティティーをどういう形で出して行くかということも今後の課題だと思う。

「ネット番組全般」について

11月7日に山口市で開催される第10回JNN系列近畿・中四国合同番組審議会のテーマに沿い「ネット番組全般」について、毎日放送番組審議会としての意見集約を行った。